

〔教育実践研究報告〕

看護職者の体験談を取り入れた授業によるキャリアマネジメントについての学び
— 学生のレポート分析から —

池西 悦子¹⁾ 林 由美子¹⁾ 上野 美智子¹⁾ グレッグ 美鈴²⁾
奥井 幸子¹⁾ 栗田 孝子¹⁾ 宮本 千津子¹⁾ 両羽 美穂子¹⁾

Career Management Learning from Nartives by Nurses:
Analysis of Students' Reports

Etsuko Ikenishi¹⁾, Yumiko Hayashi¹⁾, Michiko Ueno¹⁾, Misuzu F. Gregg²⁾
Yukiko Okui¹⁾, Takako Kurita¹⁾, Chizuko Miyamoto¹⁾, and Mihoko Ryoha¹⁾

はじめに

機能看護学講座で行っている機能看護方法2：キャリアマネジメント（以下キャリアマネジメント）の授業では、セルフマネジメントによる看護実践の方向づけがキャリアマネジメントであると捉え¹⁾、自らのキャリアを自らの意志で築いていくことや、学生時代から自分のキャリアマネジメントをはじめることの重要性を理解し、将来、自らが必要だと考えるサービスを展開するために、既存の資源もしくは新たに資源を開拓しながら自らの能力を獲得し、実践につなげていける態度を養うことを目指している。

そして授業の8回目では、キャリアマネジメントの実際を看護職者の体験談と質疑応答を通して学ぶことを目的に、看護職者を授業協力者として招聘している。

そこで本稿では、看護職者の体験談と質疑応答を通して学生が学んだキャリアマネジメントの内容を明らかにし、当授業方法の有用性と今後の課題を検討する事を目的として取り組んだ。

I. 研究方法

1. 研究対象者

平成15年度「キャリアマネジメント」を受講し、第

8回目の看護実践者のキャリアマネジメントから学ぶ授業に参加した学生85名である。

2. 分析対象

授業の最後にミニレポートとして課した「今回の授業を通して学んだこと」の記述内容を分析対象とした。

3. 分析方法

記述内容を何度も読み返し、記述内容・語彙の意味を変えないように要約した。要約された内容のうち、類似する内容のものをまとめてカテゴリー化し命名した。

分析は、一貫性を維持するために1名の研究者が行い、その分析結果の厳密性の検討は4名の研究者間でディスカッションを行い、合意が得られるまで検討した。

4. 倫理的配慮

学生に対しては、授業終了後に、ミニレポートとして記述された内容を授業評価と今後の課題を見いだす目的で研究に使用したいこと、成績には反映しないこと、および匿名性の保証について説明し、記述内容の使用に関して個々から同意書を得て承諾を得た。

授業協力者に対しては、本研究の趣旨、経歴の概略を本文に記載すること、匿名性の保障と不利益が生じないよう配慮することを説明し、承諾を得た。

1) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 看護研究センター Nursing Collaboration Center, Gifu College of Nursing

表1 キャリアマネジメントの授業計画

回数	課題	内容・方法
1	導入	授業の目的・目標、セルフマネジメントとの関係性及び進め方等のガイダンス
2～4	プロフェッショナルとしてのアイデンティティの形成	実践を通して専門職として成長していく過程、その成長に必要な経験と支援についての講義
5	キャリアマネジメントの理解 グループワーク①	課題に基づいた「キャリアマネジメント」についてのグループディスカッション
6	グループワーク②	
7	グループワーク意見交換 質問内容の検討	グループワークの発表とグループ間ディスカッション 次回授業協力者への質問内容の検討
8	キャリアマネジメントの実際	キャリアマネジメントの実際についての看護実践者の体験談と質疑応答
9	グループワーク③	キャリアマネジメントの意義を実例を通して理解する
10	(課題学習)	
11	グループワーク全体会	これまでの授業・グループワークについての発表・討論
12	キャリアマネジメントに活用できる資源の理解	キャリアマネジメントに活用できる資源についての講義
13	グループワーク④	これまでの授業・グループワークおよびセルフマネジメントとキャリアマネジメントについて総括するグループディスカッション
14	(課題学習)	
15	試験・総括・授業評価	「キャリアマネジメント」について、全体ディスカッション

II. 看護職者のキャリアマネジメントについての体験談と質疑応答を通して学ぶ授業の概要

1. 授業全体の計画と本授業の位置づけ (表1)
 2. 授業の目的：看護職者のキャリアマネジメントの体験談と質疑応答から、キャリアマネジメントの実際について理解する。
 3. 授業方法：1) 7回目の授業において、看護職者2名の略歴を学生に紹介し、キャリアマネジメントについて質問したい内容をグループ毎に決定した。
2) 8回目の授業において、2名の看護職者に各々のキャリアマネジメントについての体験談を語ってもらい、その上でキャリアマネジメントについての質疑応答を行った。
- なお、授業協力者に対しては、学生の質問に対して、答えたくない内容については、答えなくてもよいことを事前に説明した。
4. 授業協力者の選択基準：1名は学生が近い将来としてイメージ出来る経験年数で、自らの意志でキャリアを方向付け、専門性を深めるための努力をしている看護職者。

他の1名は、長いキャリアの中で新たなサービスの提

供に取り組んだ経験や、ライフスタイルへの適応など様々な困難をマネジメントしながら看護職としてのキャリアを発展させてきた看護職者。

5. 授業協力者の概略：A氏—経験年数7年、がん患者への看護をよりよいものにしたいという目的の基にホスピスケア認定看護師資格を取得し、病棟・組織全体の看護の質向上に貢献している看護職者。

B氏—看護師として就職後、一旦結婚のため離職したが、再度看護職に復帰し、家庭との両立をしながら役割を果たして来た。新たなサービス提供の責任者としての経験を持ち、現在看護部長の立場で看護職者の人事にも関与している看護職者。

III. 結果

学生が学んだこととして記述した内容は、全部で38サブカテゴリー、9カテゴリーに分類された。(表2)

以下『 』はカテゴリーを示す。

『キャリアとは』には、人生そのもの、その人の可能性、仕事とプライベートは切り離せない、在り方は様々である、継続していれば成立する、環境に影響を受けるといった内容が含まれていた。

表2 看護職のキャリアマネジメントについての体験談と質疑応答からの学び

カテゴリー	サブカテゴリー
キャリアとは	人生そのもの
	その人の可能性
	仕事とプライベートは切り離せない
	在り方は様々である
	継続していれば成立する 環境に影響を受ける
キャリアマネジメントとは	一生続くもの
	自分で意識してキャリアを積み重ねていくもの 知らず知らずに行っているもの
キャリアマネジメントに必要なこと	目的・目標をもつこと
	物事を前向きに広い視野で捉えること
	成長できる環境を作り出すこと
	経験を積むこと
	役割を把握し努力する姿勢
	困難を乗り越える技を身につけること 行動をおこすこと 看護・看護職への肯定的な思い
看護・看護職の理解	看護職として働くことがどういうことかわかった
	看護は難しいがやりがいがあるとわかった
キャリアマネジメントの授業の意義	今後の看護師像をつくるのに重要
	看護職になってからの価値観に影響する 授業そのものもキャリアマネジメントの資源である
キャリアマネジメントの今後の課題	キャリアマネジメントについて考えていきたい
	今後のキャリアについて考えたい
	目指す看護について考えたい
	役割の意味について考えたい
	看護に生かすため様々な経験をしたい
	人との出会い・意見から学びたい 私は看護師だと感じるようになりたい
自分自身の振り返り	看護職を目指した動機を想起した
	自分自身の現状に気づいた
	自分の将来について考える機会になった
学習意欲の向上	グループワークに前向きに取り組みたい
	前向きに学習を頑張りたい
その他	グループワークの内容と照合した
	キャリアのイメージができた
	将来への不安軽減 今の経験が将来に活かせるという喜び

『キャリアマネジメントとは』は、一生続くもの、自分で意識して積み重ねていくこと、知らず知らずに行っているものという内容であった。

『キャリアマネジメントに必要なこと』は、目的・目標をもつこと、物事を前向きに広い視野で捉えること、成長できる環境を作り出すこと、経験を積むこと、役割を把握し努力する姿勢、困難を乗り越える技を身につけること、行動をおこすこと、看護・看護職への肯定的な思いという内容であった。

『看護・看護職の理解』は、看護職として働くことがどういうことかわかった、看護は難しいがやりがいがある

るとわかったという内容であった。

『キャリアマネジメントの授業の意義』は、今後の看護師像をつくるのに重要、看護職になってからの価値観に影響する、授業そのものもキャリアマネジメントの資源であるという内容であった。

『自らのキャリアマネジメントの課題』には、キャリアマネジメントについて考えていきたい、今後のキャリアについて考えたい、目指す看護について考えたい、役割の意味について考えたい、看護に生かす様々な経験をしたい、人との出会い・意見から学びたい、私は看護師だと感じるようになりたいという内容が含まれていた。

『自分自身の振り返り』は、自分自身の看護職を目指した動機を想起した、自分自身の現状に気づいた、自分の将来について考える機会になったという内容となっていた。

そして、『学習意欲の向上』は、グループワークに前向きに取り組みたい、前向きに学習を頑張りたいという内容であった。

『その他』は、グループワークの内容と照合した、キャリアのイメージができた、(何がしたいのか明確でないという)不安が軽減した、今の経験が活かせるという喜びという内容であった。

IV. 考察

1. 体験談と質疑応答を通しての学びの特質について

取り出された学びには、『キャリアとは』『キャリアマネジメントとは』『キャリアマネジメントに必要なこと』『看護・看護職の理解』『キャリアマネジメントの授業の意義』という、キャリアマネジメントの学習目標についての学びと、『自らのキャリアマネジメントの課題』『自分自身の振り返り』『学習意欲の向上』というような自分自身の態度についての学びがあった。

学習目標についての学びとしては、大きく分けると、キャリアについての学びとキャリアマネジメントについての学びであり、キャリアマネジメントについての学びは、『キャリアマネジメントとは』という概念についての学びと、『キャリアマネジメントに必要なこと』のように、キャリアマネジメントにおける思考や行動の内容と、その基盤にある思いなど、具体的な内容となっていた。

内容をみても、『キャリアとは』では、人生そのもの、その人の可能性、仕事とプライベートは切り離せないというように、看護専門職としてのキャリアというよりは、人生全体という広義の意味で理解されていた。

『キャリアマネジメントとは』の内容では、一生続くものというように、常にマネジメントしていく必要性の理解と共に、自分で意識して積み重ねるという主体的に行うという捉え方の内容と、知らず知らずに行っているものという消極的な捉え方の相反する内容が見られた。

しかし、『キャリアマネジメントに必要なこと』の内容では、看護や看護職が好きという肯定的な思いに支え

られ、目的・目標を明確にし、前向きに捉え、実際に環境を作り出す等の行動をおこすというように、意識した主体的行動であることが読み取れる内容となっていた。

授業において「キャリアとは」「キャリアマネジメントとは」という主要な概念について、あえて定義づけを行わず、自分達で文献等を活用しながら検討を重ね、自分なりのキャリアの考え方が持てるような方法をとっている。そのため、学生は実際の体験談や質疑応答を通して、具体的な要素を探索した結果、これらの内容が学ばれたものとする。

また、今回の学びでは、『看護・看護職の理解』や、『キャリアマネジメントの授業の意義』で看護師像や看護師としての価値観を作るのに役立つという内容が見られていた。

これは、学習者が実習を体験していない2年次生であったことから、看護・看護職への肯定的な思いを聞く中で、看護や看護職として働く事への理解が深まり、看護師像や価値観の形成に役立つと考えたのではないかと考える。

自らの態度についての学びでは、『自分自身の振り返り』のように、自らの看護職を目指した動機を想起し、今看護職になるどの段階にいるのか、今後どうしたいのかということを考える機会となっていたことがわかる。そして、『自らのキャリアマネジメントの課題』を明らかにし、『学習意欲の向上』をさせていた。

このように、自分自身を振り返り、自分自身の目的・目標と共に自らの位置を確認し、課題を見出し、意欲を持ち方向付けするという学びは、どれもキャリアをマネジメントする態度として重要な内容である。これらの内容が学ばれていたこと、そして実際にこの授業を通して、自らの方向性を改めて考えようとしていた態度は、自らのキャリアを自らの意志で築いていくことや、学生時代から自分のキャリアマネジメントをはじめることの重要性を理解して欲しいという学習のねらいに合致した意義ある学びであるとする。

2. 看護職の体験談と質疑応答を通して学ぶ授業方法の有用性と今後の課題

今回の学びでは、「キャリアとは」の理解では、人生そのものというように、広義の理解がなされていた。これは、看護専門職としての人生と、人としての人生を切

り離して考えることは出来ず、相互に影響しているという語りの内容に影響を受けたものと考えられる。そして、「キャリアマネジメントとは」という概念の理解において、主体的な内容と消極的な内容の両方が見られていた。これも、授業協力者のキャリアマネジメントという言葉を知らなかったため、その時々で自らのやるべきことや目標を決め努力し、キャリアを築いてきたという語りの内容に影響を受けたものと考えられる。

次に、キャリアマネジメントの方法論で主体的な行動ばかりが学ばれていたことについては、「看護職者のキャリア開発とは、個々の看護職者が社会のニーズや各個人的能力および生活（ライフスタイル）に応じてキャリアをデザインし、自己の責任でその目標達成に必要な能力向上に取り組むことである」²⁾とあるように、社会のニーズを基に主体的に日々発展する考え方や知識・技術を学修し、各人が考えるよりよい看護が行なえるように努力することは、専門職としての義務であると考えている。そのため、授業協力者も自らの意志でキャリアを方向付け、専門性を深めるため努力をしている看護職者を選択したことから、このような学生の学びにつながったものと考えられる。

さらに、今回の学びでは、看護や看護職への肯定的な思いが、決して容易ではないキャリアマネジメント支えていたこと、看護職としてのキャリアをマネジメントするには様々な困難があることなど、具体的な学びにつながっていた。

それは、体験談や質疑応答の中では、脱文脈的に抽象化された知識とは違い、個別の具体的な事態に即した実践経験の中で意味付けられた内容が語られていた。そのため、自らの考えや行動の背景にある価値観や置かれた状況をどのように捉えていたのかなどについても、あわせて語られていた。そのことから、看護実践の場を体験していない学習者が、今回のような具体的な学びをすることができたのではないかと考える。

しかし、体験談と質疑応答を通じた授業は、学ぶべき内容があらかじめ設定されていて、それを教えるために事例を用いる³⁾のではない。そのため、体験を語る看護職者がどのように自らの体験を振り返り、意味づけているかによって学びが左右されるということを理解しておく必要がある。

また、今回『キャリアマネジメントとは』の学びに相反する内容が見られたように、同じ体験談をきいても、学習者の捉え方は様々である。これもこの方法の特徴であろう。

今後もこの方法を採用する場合、有用性とともに関心の特徴を考慮し、その人の考え方や意味づけを吟味した上で授業協力者を決定することや、終了後に学生の捉え方を確認していくことが必要であると考えられる。

今回の学びには、自分自身の態度についての学びがみられた。そして、実際にこの授業を通して、自らの方向性を考えようとしていた。

これは体験談や質疑応答を通して、授業協力者の過去と自分の現在を重ね合わせ、自分の現在の努力と将来の看護者像をつなげて考えられたことにより、今後のマネジメントの意義を実感し、自らのキャリアマネジメントの課題の明確化や、学習意欲の向上につながったのではないかと考えられる。

『自らのキャリアマネジメントの課題』や『学習意欲の向上』は、誰かに動機づけられたものではなく、自らが「看護職者になっていく」という自分づくりの一過程として、その意義が認識された結果であると考えられる。このことから、看護職者の体験談と質疑応答から学ぶという方法は、看護職者である私ということ意識させ、キャリアをマネジメントする意義を実感させるのに有効な方法であったと考える。

V. 結論

本研究は、看護実践者のキャリアマネジメントの体験談と質疑応答を通して学ぶという授業方法による学生の学びを明らかにすると共に、その方法の有用性と今後の課題を検討することを目的に取り組んだ。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 学生が学んだこととして記述した内容には、全部で38サブカテゴリー、9カテゴリーに分類された。
2. 学びの内容は、『キャリアとは』『キャリアマネジメントとは』『キャリアマネジメントに必要なこと』等の学習目標についての学びと『自分自身の振り返り』『自らのキャリアマネジメントの課題』等の自分自身の態度についての学びがあった。
3. 『キャリアとは』の学びでは、看護専門職としての

キャリアというよりは、人生全体というという広義の意味で捉えられていた。

4. 『キャリアマネジメントとは』の学びでは、主体的に行うという捉え方の内容と、消極的な捉え方の相反する内容が見られた。
5. 『キャリアマネジメントに必要なこと』では、意識した主体的行動であることが読み取れる内容となっていた。
6. 看護職者のキャリアマネジメントの体験談と質疑応答を通して学ぶ授業は、①語りの内容が直接学びに影響を与える、②実態に即した体験談であることから、実習経験のない学習者であっても具体的な理解につなげることができる、③体験談を通して、授業協力者と自らを重ね合わせることで、キャリアマネジメントの意義を実感させることができるという有用性がある。
7. 今後の課題としては、体験を語る看護職者がどのように自らの体験を意味づけているのかによって、学生の学びが左右されることを意識して、授業協力者の吟味を行なうこと、同じ体験談であっても学習者の捉え方が異なることを意識し、その後の授業の中で理解の確認を行なっていく必要がある。

謝辞

授業において自らの体験を語り、学生の質問に対して誠意を持って対応していただきました授業協力者の方々、そして、研究のために記録を提供してくださった学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 奥井幸子, 上野美智子, 栗田孝子他: 機能看護学の構築に向けて, 岐阜県立看護大学機能看護学講座 教育と研究, 1(1); 1-10, 2003.
- 2) 日本看護協会: 継続教育の基準, 看護, 52(11); 72-77, 2000.
- 3) 藤原顕: 教育方法としてのナラティブ・アプローチ, 日本看護学教育学会誌, 3(13); 64, 2003.

(受稿日 平成 17 年 2 月 14 日)